多重織を利用した寝装用アパレル製品

－　多重綿布組織を利用した寝具用タオル生地の開発　－

愛媛県産業技術研究所　繊維産業技術センター　主任技師　結田　清文

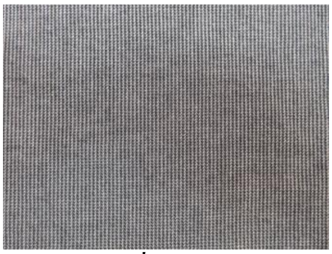
当センターの技術シーズのひとつである多重織り技術を基に、表面形状の変化に富んだ特徴の寝具用生地を開発し、寝装用アパレル製品を開発しました。

製 織 条 件

製織織機	レピア織機（SULZER　G6200）
筬番手（羽／3.79㎝）	46
よこ糸密度（本／2.54㎝）	120
パイル糸	40/2^{S}
地たて糸	40/2^{S}
よこ糸	60/2^{S}
組み合わせ製織組織	平織・ななこ織・斜紋織・模しゃ織・スポンジ織・朱子織・はちす織・なし地織

組み合わせ一例

表面



裏面

寝装用アパレル製品

製織織機	レピア織機（SULZER　G6200）
筬番手（羽／3.79㎝）	46
よこ糸密度（本／2.54㎝）	120
パイル糸	40/2^{S}
地たて糸	40/2^{S}
よこ糸	40/2^{S}
組み合わせ製織組織	表面：斜紋織　裏面：はちす織

試作品

表裏の製織組織の組み合わせにより表面形状に変化のある生地が製織でき、寝装用アパレル製品の試作を行うことができました。

しかし、縫製を行うにあたり2重織生地ならではの問題点が見つかったため、今後製品化には生地の厚さ、止め組織の間隔等について研究を行う必要があることが判明しました。

本研究は、令和6年度産学官連携共同研究開発事業により実施しました。